

令和3年度第5回安城市地域ケア推進会議

日時 令和3年10月21日(木)

午後1時30分～午後3時

場所 社会福祉会館 3階 会議室

1 会長あいさつ

久々に対面での開催。

2 議題

(1) 部会紹介(資料1)

・施設部会

(資料の通り報告)

【質疑応答・意見】

デイネット部会)

①BCPの進捗状況は各施設様々。特養が担っている特定福祉避難所に関する事など、デイネット部会ともうまく絡んでいけたら良い。

②ACPについて。特養と老健における看取りの状況は。

施設部会)

BCPもACPも各施設で進捗状況はさまざま、議題として共有できていない。これから共有を進めて利用者に質の高いサービスを提供したい。

会長)

BCPとは何か?

デイネット部会)

BCP(Business Continuity Plan)は「事業継続計画」と言い、災害時などにあっても利用者への介護サービスを安定的に継続させられるような取り組みの計画策定を今年度から求められており、令和5年度までの経過措置がある。全体で連携できたら。

保健福祉部会)

施設と地域が協働で事業ができるよう取り組みを進めている。西部地区では各事業所と一緒に、専門職の視点も生かしてウォーキング事業の取り組みを進めている。今後、各地区が事業所と一体的に取り組めると良い。

会長)

特養と老健はショートステイを併設していることが多いとのことだが、運用や入居基準などで苦勞していることは。

施設部会)

入所基準は各施設様々。特養は医師が常駐していないため、医療適用等に関しては自分たちで出来る医療とは何かを考えながら対応している。

施設部会)

老健は在宅復帰を目指す施設としていわれているものの、看取りもしている。入所者の多くは在宅で介護を受けられない人がほとんどで、稼働率の関係で入退所を繰り返す方も多い。施設入所に関しても、特養は要介護3以上が入所の条件なので苦労している。

デイネット部会)

最近の特養の待機人数は？

施設部会)

以前に比べて状況は変わっている。施設にもよるが状況に応じて早ければ数日で入居できる場合もある。

ケアマネット部会)

特養入居者のルートとして、在宅からと有料老人ホームからどちらが多いか。

施設部会)

緊急の場合を除き、当施設は有料老人ホームや病院などの施設からの相談があり、入居されることが多い。

衣浦東部保健所)

特養の場合、難病の人に対する医療ケアはどの程度可能か。

施設部会 浅田さん)

対応できる人数や内容など、施設による。なるべく受け入れられるよう検討している。

(2) 新型コロナ自宅療養者への介入の経験～高齢者での課題～ (資料2)

- ・会長より、資料・スライドに基づき事例報告

在宅での支援において、医療提供体制に関する事以外には保健所の範疇外のため、ケアマネ、介護事業所、薬局、在宅医療サポートセンターが連携する必要がある、そこに地域での課題があると感じた。ヘルパーネット部会からも報告を。

ヘルパーネット部会)

先に支援に入っていた訪問看護の負担が大きいとのことで、ケアマネから依頼された。物資は所属先の病院で揃えることができ、対応は訪問看護の看護師の指導を受けて円滑にできた。ただ、あらかじめ想定はしていたものの、介入は想像以上に大変だった。

引き受けた理由は、地域で必要とされているサービスは止めてはいけない、患者も家族も守らなければいけないという思い、ということにつきる。

介入を躊躇する理由は、事業所内でも対応できるスタッフが限られる、スタッフ自身の感染の不安、スタッフの家族への感染拡大の不安から帰宅できなくなる可能性、などがある。行政にも発信なり、補助なりの対応を考えてほしい。

【質疑応答・意見】

衣浦東部保健所)

このたびは患者対応に奔走いただき感謝している。陽性者について基本はホテル療養を案内する。療養期間は最低10日間で、最後72時間以上無症状なら退所できる。濃厚接触者は短時間の買い物なら可能。第5波のピーク時、多い時には1日200人の陽性者が出てマンパワー不足になり、疫学調査（患者への連絡）が5日後になってしまうなど、医療体制は崩壊していた。時期によって感染者数に差があるので、体制を整えることが難しく、病床もすぐには増やせない。次の波の時もご協力をいただきながら乗り越えたい。

住まい部会)

①会長の報告から、陽性者への支援が思ったより充実していると思った。高齢者でなくても同じような体制が整うのか。

②保健所の話として「ピーク時はマンパワー不足だった」との話があったが、保健所を通さなくても自分でホテル療養を利用できるように、地域の関係者が周知すれば良いのでは。

会長)

①安城市で自宅療養者に往診が必要になるとは想定していなかった。若年層がこの事例と同じような支援を受ける事は難しいのではないかと。この事例は介護保険サービスを使っていたから円滑に進んだところもある。

②基準や調整などもあるので、保健所を通さないと混乱するのではないかと。

衣浦東部保健所)

①平常時であれば若年層でも入院可能である（中等症以上）。

②保健所は入院調整機能や搬送調整も担っている。

保健福祉部会)

①ケアマネが訪問をする際、物資はどこまで支給してもらえるか。

②保健所は県の管轄、我々事業所は市の管轄。保健所と市で情報共有はできていたのか。

衣浦東部保健所)

①物資は潤沢にあるので、必要数提供できる。

②陽性者への指導や生活の注意点など伝えきれない部分があったが、県のHPにマニュアル（新型コロナウイルス感染症生活のしおり）があるので、ぜひ参考にしてほしい。そのような情報も情報共有して、早く対応ができるようにしたい。

在宅医療サポートセンター)

県の交付金事業について。コロナ陽性者に対応する医療機関は届出をすることになってい

るが（申請書提出→登録→診察依頼）、担当している患者なら登録しなくても診察するという医師もいるし、登録をすると様々な依頼が増えることを懸念する医師もいる。事前申請なしに実施報告だけにすれば交付金も受けられ、特定の医師に偏ることがなくなるのでは。
衣浦東部保健所)

第5波の時はかかりつけ医に電話診療してもらった事例もある。かかりつけ医は病歴が分かるので診療していただけるとありがたい。協力していただける医師が増えると良い。

訪問看護ネットワーク部会)

保健所の医師が指示書を出す場合に、その後現場の看護師が医師に相談できる体制を整えてほしい。また担当ケアマネがいることがわからなかった事例もあったので、ケアマネや介護サービスの情報も伝えてほしい。

(3) 意見交換

・コロナ禍における連携について

ケアマネット部会)

Web会議などの利用が増えているが、部会内や多職種間で、顔の見える関係が作りにくくなっている。利用者の課題解決に関する十分な検討がしづらい。また、ネット環境が整いにくい、有料アカウントの費用負担など、法人の方針の違いなどもあり難しい面がある。

訪問看護ネットワーク部会)

Web会議を開催しているが、無料アカウントでは時間が限られるため、有料アカウントを利用できる医師会、在宅医療サポートセンターの協力を得て、ホストをお願いしている状態。市でサポートの仕組みを作ってほしい。担当者会議は必要に応じて開催を要望している。

高齢福祉課長)

予算の関係もあり検討する。

リハビリネット部会)

アカウントの使用については、事業所（法人）の場合も、個人持ちの場合もある。ハイブリッドで行う場合もある。

・9月部会紹介 小規模多機能部会について

住まい部会)

先月の部会紹介で説明された小規模多機能等について。制度やその選択、また、誰に相談すればいいのか。よくわからなかったので教えてほしい。

小規模多機能部会)

通常、介護認定を受けると市からケアマネの事業所一覧の案内があり、小規模多機能も並べて表示されている。ケアマネと同じく認定後の相談対応を行うが、一般的にまだ認知度が低くわかりにくい。相談に来られるケースは複合的な問題があるケースなど、病院からの退院時や地域包括から紹介される事が多いようだ。

住まい部会)

市民のイメージとして、利用するサービス事業所が決まると、その事業所のケアマネを利用しないといけないのではと思い込んでいる。そうなる、事業所を替えてほしい時に言い辛い。

小規模多機能部会)

小規模多機能を利用する場合はケアマネも変更となる。実際には、ケアマネに不満があって交代するケースもある。そのようなことをアドバイスする方がいるとよいと思う。

ケアマネット部会)

ケアマネはサービスの提案に際し、公正中立に対応することとなっている。ただ、一般の方からはそのような印象を与えているということ。このような場でお聞き出来たことはと聞けたことは、課題があるということ。

保健福祉部会)

中学校区ごとに市から委託を受けている地域包括は、介護全般に関する相談も受け付けている。ケアマネの変更の相談も受け付けることもあるので、活用してほしい。

会長)

対面の良さもあり質問をきっかけに、本来の意見交換ができてよかった。

連絡事項

事務局)

- ・ 11月3日開催「ケンサチeフェス」について (資料3)
高齢者の健康増進のためのeスポーツ活用に関するシンポジウムの周知。
- ・ 認知症ガイドブックに関する意見募集 (資料4)
追加、修正項目についての意見を募集。認知症カフェについて、現在掲載していないが追加で希望される場合は申し込みを。
- ・ 講演会案内
10月27日オンライン開催「医療介護に関わる人に知ってほしい生涯トイレ排泄を続けるポイント」 (資料5)
11月10日オンライン開催 「熊本地震・豪雨に学ぶ急性期病院の災害対応」 (資料6)
- ・ 自立支援サポート会議
日 時：令和3年10月28日 (木) 午後2時～午後3時30分 オンライン開催
- ・ 在宅医療・介護連携推進のための研修会 (施設部会)
日 時 令和3年11月29日 (月) 午後6時～午後7時30分
場 所 オンライン (ZOOM)
テーマ 事例から学ぶ！事業所の安全配慮義務 ～自然災害・感染症対応について～
講 師 飛世 浩貴 氏 (MS&AD インターリスク総研株式会社)
- ・ 2021年度地域包括ケア研修会
日 時 令和3年12月3日 (金) 午後7時30分～午後9時

方 法 オンライン（ZOOM使用）

内 容 講義・事例発表

（1）講義 「人生の最終段階における意思決定支援について」

講師 杉浦 真 氏（安城更生病院 脳神経内科・在宅医療連携推進センター長）

（2）事例発表「がん告知から看取りまでの支援を振り返り人生会議を考える」

～余命2週間シングルマザーと家族の物語～

発表者 山田 万理 氏（日だまり訪問看護ステーション）

堀 涼恵 氏（安城更生病院がん看護専門看護師）

次回 令和3年11月18日（木）午後1時30分～午後3時 社会福祉会館 会議室